



## 商品を取り巻く すべての人との縁を深めて。

『料理自慢』という、だし醤油の堂々たる名品がある。「中原の醤油蔵といえば、やはりあれだね」と定説になっているだけあって、独特の風味は、まさに「ゆりはま自慢」である。創業は大正時代、伝統の製法は平成のいまに引き継がれている。この、一世紀におよぶ老舗の三代目となる若き社長の妻として、右腕としていきいき仕事をしているのが、原田ゆかりさんだ。

「といっても、ようやく子育てに一区切りついでから手伝い始めたまだ五年目の新米ですが……」しかも、嫁ぐまでは「商売」の経験など皆無だったから、まったく手探りの日々だった。懸命に学び、吸収していく。そこで得たものがあつた。コミュニケーションということの大切さである。

「商品への自信はどんどん実感してきています。でも、いいものができました、で満足しては進まないのだということもわかってきました」。消費者であるお客さまはもちろんのこと、それを扱ってくれるすべての人との縁を深めていって、商品の持っている世界をよりいっそう豊かなものにしていくこと、そういう仕事を心から楽しんでつづけていきたい。そう思うようになった。商品開発やラベルデザインなどのアイデアも積極的に出していく日々である。

社長（夫）は、いかにもスポーツマンタイプのさわやかなイケメンだ。がっちりした体型のその横に並ぶと、妻は可憐な花。

中原醤油店  
原田ゆかり



ゆ  
う  
ゆ  
う、  
ゆ  
り  
は  
ま